

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100434		
法人名	社会福祉法人 友愛会		
事業所名	グループホーム阿東園		
所在地	山口県山口市阿東地福下286－4		
自己評価作成日	平成22年7月15日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成22年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを持つよう、地域の行事やイベントに参加し、入居者の手作りの作品を展示したりバザーに出したりし、地域の理解を得よう努力しています。園内では職員と入居者が協力して物作りや調理をしています。入居者同士のいたわりや職員との信頼関係も日に日に深まっています。家族との関わりも大事にしながら、毎日が安全・安心で、ひとりひとりの笑顔や感情を受け止めながら楽しく生活できるよう支援しています。年1回「家族の日」をもうけ、家族と楽しい一日を過ごせるよう工夫しています。その時の様子を写真やビデオに収め、後日家族に送ることで、ホーム、家族が一緒になって、ご本人を支えていることを、改めて認識することができます。ホーム全体の生活環境にも恵まれ、自然の中で、本人ペースでゆっくりした時間を過ごすことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住み慣れた地域での生活の延長で暮らしていけるように工夫されています。年1回「家庭の日」を設け、10時から15時まで家族が事業所に来て、利用者の居室で談笑や整理整頓を行なってふれあい、寄せ植え・写真撮影などで共に楽しく過ごし、家族同志の交流をされています。職員は家族の意見や要望を聞き、ビデオや写真撮影をして後日家族に送付されています。当日の写真は利用者が額を作って飾り、利用者が家族との交流場面を振り返れるように時々ビデオ鑑賞をされています。また、地域の祭りに利用者と職員で一緒に出かけて作品の展示販売をしたり、保育園児を招いてお遊戯の披露をしてもらったり、法人のデイサービスセンターに訪れたボランティアの人々を事業所に招いて交流されるなど、家族や地域との関わりを深めることができるように支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・楽しく・和やかに、住み慣れた地域でひとりひとりが明るく笑顔に満ち、安心安全な生活ができるように支援します」という理念に基づき実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、職員はゆっくりと声かけをして笑顔で接し、一日の流れの中でおだやかに接するようにしている。カンファレンス等で理念について話し合い、共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、運動会、イベントに参加したり、食料品や日用品の買い物に地域のスーパーに出かけている。	自治会に加入し、地域の祭りで作品の展示販売をしたり、小学校の運動会に参加し、保育園児やボランティアを招いて交流している。買い物などで地域の人々と気軽に挨拶を交わし、野菜などの差し入れもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに参加する際、入居者の手作りの作品を展示したり、即売して地域の人と交流している。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、自己評価は、あらかじめ全職員に評価表を配布し、職員会議で話し合い取りまとめている。外部評価の結果、改善部分についても出来るところから取り組んでいる。	評価の意義を理解しており、管理者は自己評価書を全職員に配布し、職員会議で話し合っ て作成している。評価することで課題に気づき、夜間排泄誘導の改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、老人会会長、婦人会長、他ホーム職員、町地域包括支援センター職員、家族代表などのメンバーで入居者の日々の暮らしぶりや行事報告などの近況を報告し、意見や要望をサービス向上に生かしている。	民生委員、老人会長、婦人会長、地域包括支援センター職員、家族(2名)、施設職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催し、生活状況、活動報告、研修報告、外部評価報告等で意見交換をしてサービスの向上に活かしている。		
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議等に町の職員も参加しているので、都度相談や助言をもらっている。	市の担当者にケアプランについての相談や利用状況等の電話連絡をしている。会議等の機会を捉えて積極的に協力関係を築くように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修で職員全員が身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアにとりくんでいる。	マニュアルがあり、法人の身体拘束廃止委員会(年3回開催)や内部研修などで全職員が身体拘束の内容や弊害を理解し、玄関に鍵をかけず、スピーチロック等にも注意し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修で職員全員が虐待について正しく理解しており、虐待のないケアにとりくんでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会が少ないので、出来るだけその機会をつくるように努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や面会時など必要な時に都度内容の確認を行っている。また、家族からの問い合わせにも都度対応している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明記し、法人全体の「福祉サービスに関する苦情解決委員会規定」で苦情処理手続きを定めている。	面会時、電話、毎月の生活状況報告、3ヵ月毎の事業所便り、運営推進会議などで家族等の意見や要望を聞き運営に反映させている。苦情相談窓口や担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議のなかで、意見や提案を出し合い、運営に反映させている。	管理者は毎月職員会議を開催して職員の意見を聞き、運営に反映させるように努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の適正な給与水準、労働時間の確保に努め研修や環境整備等を通じて、職員がやりがいのある職場になるよう努める。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は積極的に参加し、内部研修は新人、中堅、ベテランと段階に応じて行っている。研修は復命し、ミーティングなどで、働きながらのトレーニングを心かけている。	外部研修や内部研修は勤務の一環として積極的に参加する様に努めており、復命やミーティングでトレーニングを実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や地域のグループホーム交流会を通じて、意見交換や情報交換、勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること、不安なこと、要望を聞きながら、安心して生活できるよう支援している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がこまっていること、不安なこと、要望を聞きながら、安心して生活できるよう支援している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中から、必要な支援を探っていくよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者から調理についての細やかな仕方を教わったり、一緒に行いながら喜怒哀楽を共にし、お互いが学んだり、支えあう関係を築いてる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活状況を伝え、必要な支援について都度家族と話し合い、職員も、ともに本人を支えていくよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊等により、いままでの関係を保つよう努めている。また、ドライブ、買い物等により馴染みの関係が途切れないよう支援している。	利用者や家族と話し合って定期的な外泊や墓参りを支援したり、買い物や美容院への送迎、馴染みの場所へのドライブなどを行なっている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで過ごす時間と、一人で過ごす時間を大事にすることはもとより、お互いが協力して作業したり、体調のすぐれない人を気遣ったりすることで、入居者同士が支えあう場面がたくさんできるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談を受け、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの本人ペースの生活を重視し、その人らしい生活ができるよう希望にそった支援に努めている。	日々の暮らしの中で、ふと話された言葉などを生活日誌に書きとめて職員間で共有して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族と相談したり職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報と、本人のこれまでの生活歴や生活環境を把握するようことで、こらからの生活支援に役立つよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の好むこと、できることを、毎日の生活のなかからくみ取り、本人ペースで安心安全な生活ができるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞きながら、職員間での話し合いを持ちながら、本人にとってより快適な生活空間と生活を提供できるよう努めている。	モニタリングを行なって介護計画を見直し、ケアカンファレンスで話し合い、本人・家族の希望、職員や主治医等の意見を反映させた介護計画を作成し、職員が共有している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人個人の生活記録の中に、ケアの実践記録を記入し、職員全員が情報を共有し、介護計画を立てている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望を聞きながら、その時どきに必要な支援を心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内での掃除、洗濯物、調理の手伝い、畑の草取り、野菜の収穫など、いままで行ってきた事することによって、安心して楽しく生活できるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を聞きながら、都度受診対応している。	かかりつけ医の希望を聞いているが全員が協力医療機関をかかりつけ医としており、連携のもとで、月2回の往診や随時の受診などを行い、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化が見られる時はバイタルチェックをし看護師に連絡し、指示をうけることで、必要な治療や適切な受診を受けられるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の確認の電話や、現状の様子を聞きながら情報を交換している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族ごとに思いや意向が異なっているため、早い段階から家族と話し合っ、都度対応している。ホームでできることについても、十分な理解を得るように話し合っている。	利用開始時に重度化や終末期に向けた取り組みを利用者や家族に伝えている。重度化した場合は、早い段階から主治医や家族と話し合い、家族の理解が得られるように努め、方針を共有している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人内での研修はもとより、ホームないでも看護師の指導のもと定期的に救急法の実地訓練をして、緊急時の対応に努めている。	マニュアルを作成し、ヒヤリはっと報告書や事故報告書に記入し、ミーティングで検討し、年1回事例検討や危険予知訓練を行なって事故防止に努めている。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防・避難訓練を実地しているが、特に夜間想定訓練に力を入れている。また、災害訓練を行い、入居者の安全に努めている。消防署との連携をとることはもちろん、地域の協力を得ている。	年2回通報・避難・消火訓練を実施し、年1回法人全体で風水害訓練を実施している。自治会の協力を得るための働きかけをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように職員間で気をつけている。入居者本位のケアに努めている。記録物は事務所に保管し個人情報の取り扱いに注意している。	法人の接遇研修を受講し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をするように取り組んでいる。記録類は事務所に保管し取り扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を十分聞き、自己決定により物事を進めていくよう働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースの生活を優先して、声かけや見守りにより、本人の過ごし方を尊重している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、着替えの際は声かけしたり、本人の選んだ衣服をきてもらう。散髪などの整容についても希望を聞きながら行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物など、好みを聞いて取り入れている。食事の準備やかたづけなどを一緒にしている。職員も一緒にテーブルで食事し、楽しい雰囲気を作るようにしている。	三食とも事業所で調理し、畑の収穫物がある場合等は利用者の希望の献立にしている。利用者はテーブルを拭いたり下膳などを職員と一緒にしている。職員も同じテーブルについて食事を楽しめるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食のチェックすることで、栄養のかたよりを確認して、不足な物を補うよう努めている。食事以外の水分量は本人ペースを把握し、日中、夜間もとれるよう工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの身体状況に応じて、毎食後、口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけや誘導することで排泄の失敗を減らし、本人ペースでのスムーズな排泄を促している。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけをして排泄の支援に努めている。夜間は個々の状態によって声かけを工夫し、排泄の失敗が少なくなるよう支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナをミキサーにかけ牛乳と混ぜてすすめている。また、野菜繊維のあるものを取り入れたりしている。体操、散歩など習慣づけて行うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴状況を把握しながら、楽しみのある入浴を提供している。言葉かけをしたり、対応をかわてみたり、個人に合った入浴をこころがけている。	入浴は日曜日以外は毎日14時から16時まで可能で、ほとんどの利用者が入浴を楽しみにしている。入浴をしたくない人には無理をせず声かけを工夫し、シャワー浴や足浴を行ない、翌日か3日後には入浴が実施できる状態になるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え、安心して眠れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの既往歴と現在の健康状態を台帳にまとめている。薬の効能、副作用がわかるようまとめている。体調面での変化については都度看護師や連絡している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握しながら、本人のできる能力を探りながら、生活場面において十分に発揮できるよう支援している。	畑づくり、貼り絵、歌、脳トレーニング(漢字ドリル、字の並び替え)、バザー作品作り、散歩、ウッドデッキでのひと時、掃除、お盆拭き、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添いながら、状況を判断し、外出・買い物等の支援をしている。	法人内敷地の散歩、買い物、ドライブ、野菜の収穫、花見、ウッドデッキで日光浴など、日常的な外出を支援し、定期的な外泊などは家族と連携をとって支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出での買い物や入用のときは、自由にお金を使えるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添いながら、できるかぎり支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほっとやすらぎような家庭の温かさが感じられるような雰囲気を取り入れ、季節・行事に合わせたものを配置している。音の大きさや照明などは都度入居者の意向を確認しながら調整している。	玄関や居間に季節の花が飾っており、共用空間は明るく、調理の様子や自然環境に恵まれた景色が眺められ、テレビやソファ、椅子も置かれ、生活感や季節感が感じられる。温度調節も快適であり、家庭的な温かい雰囲気で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂でみんなと過ごす時間と、ひとりで過ごせる空間の確保も考えながら、工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・ベット・椅子・テーブル、写真・飾り・置物など馴染みのあるものを持ち込んでもらい、本人が落ち着ける空間をつくるようにしている。	利用者の馴染みの家具やベット、椅子、テーブルなどが持ち込まれ、エアコンが設置されている。居室から外の景色が眺められ、家族の写真や利用者の作品を飾って居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの背もたれ、手すり、浴槽のスノコ、浴室の椅子にクッションなど箇所箇所に工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム阿東園

作成日: 平成 23年 7月 20日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	28	個人個人の生活記録がケアプランに沿って記入されていないことがありプランを見直す際に介護計画に反映されていないことがある。 質の良い介護計画にする。	個人個人の生活記録に必ずケアプランに対してどのような実践がなされたか内容をたしかに記入するようにしていく。	話し合いにて職員に再確認をし、意識して記入するようにする。 生活記録の台紙に個々のケアプランを挟んでおき見て記入するようにする。	1ヶ月
2	18	アセスメントの段階で家族から必要としている情報収集が出来ているかどうか今一度見直し 初期対応の見極めにつなげる。	再度情報収集をし直し、生活歴や人生史など再度認識し家族からも面会時などに聞き 安全で楽しいと思えることを支援する。	アセスメントを見直しスタッフと話し合い具体化し細かく書き出し実践する事で今後の支援の気づきにする。	2ヶ月
3	34	高齢化に伴い重度化してきているので、終末期のあり方について早い段階で家族、本人と話し合いを持ったり、その都度話し合っているが文章化しておく必要がないだろうか。	本人も家族も安心して生活が出来るように十分に理解を深め終末期を迎えての信頼関係を築いておく。	契約時と本人の身体状況に応じて終末の意向について文章化したものに記入してもらう。 又その文章を作成する。	2ヶ月
4	51	これから外出する機会が増えるが、本人の希望や状態に応じてお金が使えるように支援する。	1ヶ月に1回程度は外出先またいつも行かれていたお店に行き、好きなもの(衣料品や、お菓子等)購入していただく。	本人の希望に応じて外出先やお店で希望の物を購入して頂く。 道の駅で特産物やいろんな品々を見て購入される事を楽しみにされている。	1ヶ月
5	41	職員が献立をたてたり、調理することが多いので、一人ひとりの好みを聞き、また力に応じて準備や調理をして頂く。	食事の下準備野菜切りや片付けなど行ってもらっているが、今後は利用者の方に好みを聞き月に1回お弁当の日にして弁当を作り一緒に行く。	月1回弁当の日にして、餃子・コロッケー一緒に作り弁当に詰めていく。 眼先も変わり小食な方でも殆んど食べられる。	1ヶ月
6	42	これから暑くなり水分量が不足しがちになるので食事・水分量のチェックをおこない一人ひとりの栄養バランスや水分量などの状況を把握する。	食事の量や水分量をチェックを行い一人ひとりの状況を把握し栄養の偏りや、水分不足のないように支援する。	食事の量や栄養バランス(残食)を確認し水分量は一人ひとりの1日の量を計算し不足分を補い、こまめな水分補給を行う。	1ヶ月

7	36	火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者が非難出来る方法を身につけるよう日々シュミレーションを行う。 訓練時に少し時間が掛かると指摘される。	年に2回の消防・避難訓練、また法人全体での風水害の訓練を実施しているが方法を職員が身につけるよういつもシュミレーション出来るようにしておく。	消防・避難訓練の一連の流れを目に付く所に貼っておく。 風水害の危険区域も再度確認する。 日々シュミレーション出来るようにする。 地域の方の協力も得るため働きかけをする。	1ヶ月
---	----	--	--	---	-----

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。